

第18回災害対策本部会議における知事コメント

このたび、新たに1名の尊い命が失われました。この方については、今回の地震との関連を調査中です。深い悲しみを覚えますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。ご遺族の皆様には謹んでお悔やみ申し上げます。

本日の会議では、美里町において建設型応急住宅の整備が決定したことや、ボランティアや被災市町への人的支援が増加したことなどについてご報告がありました。絶えず先を見据え、対応していただいている皆様に、感謝申し上げます。

現在、多くの方々に被災地で活動していただいておりますが、先ほど国交省から資料がありましたとおり、お盆期間中は例年以上の渋滞の発生が懸念されます。被災地へ移動される場合は、相乗りや迂回路の利用等についてご検討ください。

さて、発災直後から、職員や関係機関の皆さまとともに、防災センターで対応に当たっておりますが、本日からようやく被災地を訪問することができました。

本日は、氷川町と宇城市において、避難所や高齢者施設の皆さま、「なし」や「いぐさ」農家、地元首長など、多くの方々から、時間の許す限り、お話を伺って参りました。

視察を通じて、避難所におけるエアコンやトイレの整備をはじめとした生活環境の向上が、避難者の心身の負担軽減や健康維持に極めて重要であることを改めて認識しました。

氷川町の特産品である「なし」については大半の果実が収穫できないなど深刻な被害を受けております。全国シェア100%近くの「いぐさ」についても、来年の生産に向けた苗の確保が大きな課題となっています。生産者の皆様が大変厳しい状況に置かれていることを実感し、営農継続のためには、継続的な支援が必要であることを改めて認識しました。

明日は八代市、それ以降も被災市町を訪問させていただく予定としております。それらを通じて見えてきた課題等については、県の関係部局はもとより、国や関係機関の皆さまにも共有させていただきますので、皆様におかれましては、引き続き連携しながら、今後の支援について検討し、できることから、迅速に実現していきたいと考えております。

また、昨日、高市首相から、被災した中小企業への支援について、激甚災害の「局激」に指定する見込みが立ったとの発表がありました。

さらに、片山財務大臣に熊本を訪問していただき、経済団体や金融機関の皆さまと意見交換していただきました。

被災された事業者の支援にも、国と連携してより力強く取り組んで参ります。

最後になりますが、被災された方々や大切なご家族を亡くされたご遺族は、日々、様々な不安や悲しみを抱えながら生活されています。報道機関の皆様には、熊本の厳しい現状を全国に発信していただいていることに感謝を申し上げる一方で、一部の被災者やご遺族から、過剰な取材や報道に対し、不安を感じているとの声が寄せられています。取材等に当たっては、被災者やご遺族の心情に最大限ご配慮いただくよう、改めてお願いいたします。

被災された皆さまのお気持ちをしっかりと受け止め、寄り添いながら、引き続き全力で頑張参りましょう。よろしくお願いいたします。